

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 23 年 6 月 30 日			
所属学部・研究科	国際協力研究科 博士課程後期3年次	性別	<input checked="" type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	
留学先大学	アムステルダム大学 (国名: オランダ)			
所属学部・学科等名	College of Social Science			
在籍身分	Exchange Student			
留学期間	平成 22 年 8 月 21 日 ~ 平成 23 年 6 月 30 日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: Residence Permit (滞在許可)			
	ビザ申請先: アムステルダム大学 (窓口)			
	取得方法: オランダ出発前にウェブサイトに必要な事項の記載と書類のデータ(PDF)での添付を求められる。その後、受け入れ面談(intake appointment)時に大学の窓口に必要な書類を提出する。			
	提出書類: パスポートコピー、オランダのパスポートサイズの証明写真、保険、所得証明証			
	手続きに要した日数: 3ヶ月-4ヶ月 (滞在許可取得まで)			
	※オランダ入国の際にはビザは不必要			
その他必要な事前手続き	特になし			
出国年月日	平成 22 年 8 月 20 日			
経路	成田→クアラルンプール→アムステルダム・スキポール			
現地での出迎え	<input type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	ISN(Int'l Student Network)というアムステルダムにある大学の学生団体が8月24日から - 27日かけて、アムステルダムのツアーをかねたイベントを開催。9月に入り、大学のオリエンテーション、図書館の利用ツアー、レポートの書き方などのオリエンテーションがあった。			
帰国年月日	平成 24 年 4 月 (予定)			
経路	未定			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	125万	円	
	内訳	渡航費	8万	円 (片道)
		保険料	9万	円
		教科書代(学費)	3万	円
		宿舍費	65万	円
		食費	30万	円
		その他 (交際費)	10万	円
(費)		円		
(費)		円		

3. 授業について	
2010年 第一学期	9 月 6 日 ~ 1 月 28 日
年 第二学期	1 月 31 日 ~ 6 月 29 日
授業の概要について (カリキュラム、プログラム等)	第一学期においては、学部レベルの論証学および大学院の国際法の授業に登録。第二学期においては、大学院の国際刑事法を受講。所属するコースに応じて、登録できるコースのリストが配られるが、気にせずにとりたい授業を担当者と交渉したら取れるようになりました。
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ※有の場合、所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	リーディングの課題は、単語がわからないと辞書でしらべたりして時間がかかるので、TOEFLの準備の中で単語はたくさん覚えましょう。また、リーディングの課題が多すぎる時には、要点をかいつまんで読むなどのテクニックも知っておくとよいかもしれません。
4. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()
住居の広さ	約 30 m ² 同居人の有無 <input type="checkbox"/> 有 (人) <input checked="" type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input checked="" type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ()
住居費	1ヶ月当たり €527 (現地通貨) 約 65000 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()
留学先での住居全般に関するアドバイス	ウェブサイト上から大学に住居の斡旋を依頼し、条件を記載すると仲介業者からひとつだけ部屋のオファーが来る。これを受け入れるのも、拒絶するのも可能だが、拒絶した場合その業者からもう部屋の紹介が来ないので、自分で家を探す必要がある。私は部屋の広さについて要望があったため、大学の留学担当者に個別にメールを送って対応してもらった。
(2) 医療について	
1日以上入院を要する病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()
掛け金は	年間 87,000 円 (一年間) 補償額 死亡 100 万円, 入院 300 万限度 その他 ()
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
有の場合、その種類、回数、費用、受けた医療機関名	
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:

留学先国の医療事情 (日本と比較して)	オランダでは、何かあったときに家の近くにあるホームドクターにかかり、そこから状況が深刻な場合は大学病院を紹介される。	
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	特にはないが、どこにいても、規則正しい生活と適度な食生活を維持することは必要です。	
(3) 危険を感じた地域、状況		
アムステルダムは一般的に治安が悪いと言われているので、特に女性の夜道の一人歩きは気をつけましょう。特に夜でも人の多い飾り窓地域(Red Light District)、Dam, Nieuwmarkt と呼ばれる地域は気をつけましょう。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
<ul style="list-style-type: none"> ・到着当時は、スーパーの表示などすべてオランダ語だったので苦労しました。 ・大学から進められる銀行口座は ING Bank ですが、銀行から送られてくる手紙やオンラインバンクはすべてオランダ語だったので、苦労しました。他の銀行を検討してもよいかも知れません。 ・自転車はあるとすごく便利です。Waterlooplein というところで中古自転車屋がありそこで購入できます。(€70 - 100) ・携帯電話の sim card が最初の ISN のミーティングにて無料で配布されます。日本から sim free 携帯をもっていく場合は使えるかと思えます。 		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 24 年 3 月 (当初の卒業予定年月 平成 23 年 3 月)	
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input checked="" type="checkbox"/> その他 (交換留学後、オランダにインターンシップのため留まり、その後博士論文を執筆提出するため)	
現在の状況および今後の予定・進路等	同上	
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	必要単位は取得済み	
6. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等		
書籍、サイト名	詳細 (出版社、URL 等)	コメント
9292.nl	http://journeyplanner.9292.nl/	出発場所と目的地の住所を入れたら交通手段が出
	http://www.ns.nl/en	電車の検索ができます。
日本食材品店リスト	http://holland.komeg.info/japanese-shop.html	いろいろとオランダでの生活について参考になり
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
<p>1) オランダ到着時に困ったことは、マートや駅や銀行からの手紙がすべてオランダ語ということでした。オランダ人の友達をつくるか、google translator や chrome の翻訳機能を使って乗り切りましょう。</p> <p>2) 滞在許可の申請時に、滞在期間1年で申請したにもかかわらず、大学の担当者の手違いで半年の滞在許可しか下りませんでした。最終的な滞在許可が出たのが4月になってからでした。大半の留学生は半年の期間で来ているため、間違われたと思いますが、あらかじめ担当者にしっかりと確認しましょう。</p> <p>3) さまざまありましたが、オランダは多文化、多言語で非常に刺激になりました。オランダ人はネイティブに並みに英語が使えるので、英語圏の留学だけ考えている人にとってはよい選択肢になると思っています。</p>		

1. 第一セメスター

英語の補修、論証学(Argumentation Theory)と国際法の授業を受講しました。英語の補修については、College of Social Science の学生の中で IELTS 7.0 TOEFL 100 未満の学生が対象となり、主に英語のライティングの練習を行いました。毎週 300word 程度の課題作文が出され言葉の選択や、グラフの説明のしかたなど IELTS のライティング対策のようなことをしました。論証学および国際法の授業はそれぞれ、週 70-80 ページの予習が必要とされました。論証学の授業では 2 回のテストと 2 回のエッセイおよび 1 回のグループプレゼンテーションで評価がなされました。国際法では、1 回の持ち帰り方テスト (take home exam) と 1 回のテストで評価が決まりました。確かに、それぞれの予習やテストの準備は大変ですが、課題やテストの一つ一つに点数とフィードバックが帰ってくるので、先生のアドバイスをもらいながら、大変充実した時を過ごすことが出来ました。まだこちらの生活に慣れないときは、欧米系の学生が大多数を占める授業に参加するのは、緊張しましたがとてもよい経験になりました。また、国際法の授業の一環として、ハーグにある国際司法裁判所、国際仲裁裁判所、国際刑事裁判所などに見学にいきました。このことは、国際法に興味のある学生にとってはとてもよい経験になると思います。

2. 第二セメスター

前期は、大学の授業を受講しつつ生活に慣れることを目標にしていました。後期は、今後につながることをしようと考えていました。授業は自分の博士課程の研究に関連する国際刑事法の授業のみを受講しつつ (後に、あまり研究分野と関係のないことだったのでドロップアウトしましたが)、(1) 交換留学後に進学することを目標にしていたオランダの法律系大学院への出願・合格 (2) そのための奨学金の取得 (3) 日本語での投稿論文の執筆 (4) 博士論文の研究対象である国際刑事裁判所のスタッフに対する聞き取り調査 (5) オランダでのインターンの機会の取得を目標にしました。この時期は大学の図書館や、アムステルダム市立図書館に毎日のように通い一人で自分のすべきことを淡々と行っていました。結果、(2) については残念な結果でしたが、それ以外については、ある程度の結果を出すことが出来ました。特に、(5) については研究対象の上記裁判所から半年間インターンの機会を得ることが出来、本当に実りのある時期を過ごすことが出来ました。

3. まとめと HUSA について

アムステルダム大学における授業については、原則自分の所属先から履修することが求められておりますが、あくまで「原則」なので、いくらでも交渉次第でどうにかなるという印象をもちました。

HUSA を利用して交換留学をなされる人の中には、学部生であったり修士課程の学生であったり、私のような博士後期の学生であったりそれぞれの状況があると思います。確かに授業をとることは非常に大事ではありますが、ある程度授業をとる必要のない方は、それぞれの問題意識にしたがってある程度自由なことをしても得られるものがあるかと思っています。

私の研究する分野は、日本のみで研究活動を行ってきた人が、将来的に職につくことが難しい分野です。また私はこれまで海外に出て勉強・研究するような機会がありませんでした。将来について悩んでいたときに、HUSA の話を聞き留学にいたりしました。結果として、今後につながる人間関係や、経験といったものを得ることができました。今回の留学の機会をくださり、支えてくださった HUSA の皆様、給付奨学金の支給元である日本学生支援機構に非常に感謝しています。

1. 寮・食・全般的な生活について

部屋もキッチンもバスルームも個人利用でしたので、ある程度プライベートが尊重された空間にいました。ルームメイトとのトラブルがなかった反面、寮中での人間関係がオランダでの生活の核になることもありませんでした。これは、建物自体の構造がある程度のプライベートを維持するようになっていることも原因としてあります。ただ、個人的には寮での生活はむしろ好きでした。

また個人で使えるキッチンがあったために、食生活もほぼ自炊していました。自転車で10分足らずのところにはニューマルクト(Nieuwmarkt)と呼ばれるチャイナタウンがあり、そこでアジア系の食材(カリフォルニア米・ラーメン・豆腐・野菜など)が手に入りました。また、国立ミュージアムの近くに日本食品店がありここで納豆なども買えました(高いですが)。外食の場合大体ピザが€3-5、マクドナルドが€5-10、レストランが€10-20という状況でした。

アムステルダムは、基本的に自転車圏内でどこでも行けてしまうので、自転車は必須かと思います(広島市内の移動に近いかもしれませんね)。初期費用(€70-100)はかかりますが、中古自転車を買われることをお勧めします。また鍵をかけてもすぐに盗まれるため鍵を二つつけてポールにくくりつけるなど、ある程度防犯対策はしっかりしたほうがよいかと思います。

オランダ国内には美術館数多くあります。€20-30程度でこれらの美術館の1年間のフリーパスが購入できるのでお勧めです(どこの美術館で購入可能)。またクラシックコンサートについて、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団の本拠地が国立ミュージアムの近くにあり、毎週水曜日のお昼から無料のコンサートを堪能できます。

さらに交通手段については ov-chipkaart という日本の suica のような接触式のカードがあり、これを購入し、お金をデポジットするとバスやトラムで利用できます。トラムの中で直接切符を買うより割安です。電車の場合 The off peak discount pass というものがありこれを€55で購入すると1年間、朝の9時以降に乗った電車賃が40%オフになります。

治安状況については、あまり良いとは言えないのが実情です。夜道を歩いていた友人3人が強盗に襲われ有り金を取られるという状況(友人は無事でした)があり、また友人の不在時に家に盗人が入りノートパソコンなどの貴重品が発生したということもありました。必要以上に恐れる必要はありませんが、最低限の緊張はしましょう。特に夜道を移動する際には歩くのではなく、自転車に乗ることである程度のリスクを回避することも出来ます。

ドラッグ系については特にマリファナが合法なこともあり、人の多いところに行けば必ずマリファナの匂いがします。コーヒーショップと呼ばれるマリファナを売っていることもたくさんあります。また友人によるとマジックマッシュルームも気軽に買ってしまうようです。この点については周りに流されず自己管理をしっかりしたほうがよいと思います。ちなみにマリファナはこちらでは weed とか hash などと呼ばれています。

2. 友人関係について

ISN(International Student Network)と呼ばれる大学から支援を受けた学生組織がイベントを企画しており、8月には introduction days と呼ばれる留学生向けのアムステルダム観光ツアーを行っています。そこで、初めての友人は出来ました。このほかにも、オランダの各地域へのツアーやクラブで飲んだり踊ったりするイベントなどがありました。最初のうちは8月にあった人々や授業で出会った人々、またクラブで出会った人々と仲良くなっていきました(今考えると表面上ですが・・・)。とりわけ、前年度交換留学でアムステルダム大学から広島大学に来ていたオランダ人学生によくしてもらい、今に至るまで親友としてよい関係を続けています。

友人関係について一つ転換点となったのは、自分の誕生日に寿司パーティをひらいて facebook でイベント告知をかけたことです。そのときに、友だちが友だちをよび20名を超える人々が参加をしてくれました。このパーティをきっかけとして、今に至るまで付き合い続けている友人関係が出来ました。パーティを企画すること自体慣れておらず、びくびくしながら行いましたが、勢いでやってみるとよい結果が生まれるものだと思います。

また今回、日本人の友人にも恵まれました。アムステルダム大学には私の他に慶応から2名の学生が来ていましたが、気心の知れた付き合いが出来ました。国籍の異なる友人との時間を大切にしつつ、彼らとの交流をすることで、うまく精神的なバランスをとることができました。さらに互いのインターンのための面接対策や英文履歴書などの情報交換することで、切磋琢磨もできました。

技術的なことになりますが、海外で友だちを作っていくために facebook は有用だと感じました。最初に挨拶しただけだと、名前も忘れてしまいその後続かないということはあるのですが、私は facebook を名前を覚えるためにも、関係性を維持するためにも有効なツールとし大活用しました。

3. まとめ

とはいえ最初の3ヶ月は苦労しました。不慣れな場所で英語という環境もあり、ストレスがたまりました。睡眠時間も長くなり、円形脱毛もできました。TOEFL の勉強をかなりしたはずなのに、授業で発言できず、緊張のため話しかけてもらってもよく聞き取れず、さらに縮こまっていくということもありました。何のために留学に来たのだろうと留学の目的も考えることもありました。また、当初予定していたこともなかなかできず、自信を失っていくこともありました。そうした、つらい時期を過ごした後、オランダでの生活が楽しくかけがえのないものへと変わっていきました。今でも当たり前、なれない事が多くありますが、そうしたものも生活の一部として、うまく流せるようになっていきます。留学は大変なことが多くあると思いますが、その分自分を急激に成長してくれるものだとも思っています。